

ようこそ湯の国登別へ

登別温泉は、北海道の西南部に位置し、新千歳空港から約1時間の距離にある全国有数の温泉地です。

幕末、明治初期の開拓者であった滝本金蔵が1858年(安政5年)年、湯守となったのが登別温泉の始まりとされています。金蔵は私費で道を整え、湯宿を設け現在の基礎を築きました。その後、明治38年に日露戦争の傷病兵の保養地に指定されると、『名湯・登別温泉』の名が全国に広まりました。

登別温泉の大きな魅力は、自然湧出量1日1万トンといわれる豊富な湯量と、世界的にも珍しい9種類の泉質で、「温泉のデパート」ともいわれます。登別はアイヌ語の「ヌブルベツ(白く濁った川・色の濃い川)」を語源とし、古くから川の色が変わるほど潤沢な温泉が湧きだしていたことを物語っています。



登別地獄谷



大湯沼川天然足湯



大湯沼



奥の湯



登別地獄まつり

登別市には三つのテーマパークがあります。中でも「のぼりベツクマ牧場」は1958年の開業で、テーマパークの草分け的存在です。現在はヒグマ60頭余りが飼育されており、体型に似合わせたかわい仕草は観光客の人気の的になっています。



登別温泉湯まつり

登別市では、隣接する白老町と連携した観光PRを進めてきました。その白老町に2020年7月、民族共生象徴空間(愛称「ウポポイ」)が開業しました。ウポポイは先住民アイヌを主題とした「国立アイヌ民族博物館」と、古式舞踊の公演や多様な体験プログラムを通してアイヌ文化を

地域最大の祭りである「登別地獄まつり」は、毎年8月の最終土・日曜日に開催され、年に一度地獄の釜のふたが開き、閻魔大王が赤鬼・青鬼を従えて温泉街へ現れるというストーリーです。重さ1トンの「鬼みこし」や「閻魔大王」のからくり山車を中心とした「エンマ大行列」「鬼踊り大群舞」など、観光客や市民たちが鬼と一緒に楽しむ迫力満点の祭りです。



地獄の谷の鬼花火

まつりで感じる登別



のぼりベツクマ牧場



登別マリンパークニクス



登別伊達時代村

展望台からは透明度全国2位を誇る湖「クッタラ湖」や太平洋を一望できる素晴らしい眺望を堪能できます。「登別マリンパークニクス」は海洋ファンタジーをテーマにした水族館で、デンマークの古城「アイエスコ」をモデルにした外観は多くの人の目を引きつけます。イルカやアシカのショーのほか、イワシのパフォーマンスが楽しめる銀河水槽や毎日実施されているペンギンパレードが人気を集めています。

片倉小十郎の末裔が入植したことで開村されました。街道に軒を連ねる商店や勇壮な武家屋敷、からくり満載の忍者屋敷のほか、迫力満点の忍者ショーや華麗な花魁ショーなど、エンターテインメントの空間が広がっています。このほかにもサンライズバス、キッズ、さまざまな体験プログラムを楽しめるネイチャーセンター、貴重種が生息するキウシト温泉等、新たな地域資源が登別の魅力を高めています。

イランカラテ アイヌに触れる「ウポポイ」

登別市では、隣接する白老町と連携した観光PRを進めてきました。その白老町に2020年7月、民族共生象徴空間(愛称「ウポポイ」)が開業しました。ウポポイは先住民アイヌを主題とした「国立アイヌ民族博物館」と、古式舞踊の公演や多様な体験プログラムを通してアイヌ文化を



画像提供: 公益財団法人 アイヌ民族文化財団



ポロト湖とコタン



舞踊の様子

(一社)登別国際観光コンベンション協会
TEL: 0143-84-3311 FAX: 0143-84-3303
URL: <http://naboribetsu-spa.jp/>
登別国際観光コンベンション協会 検索